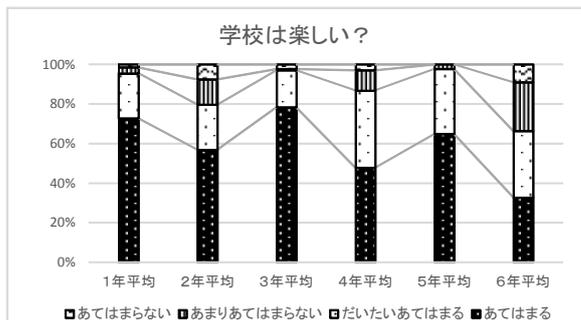


# 学校評価特集号NO7 その他 全般

# 美咲野小だより

3月 

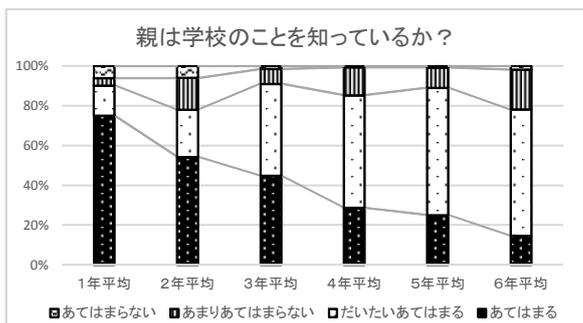
NO.21  
H30.3.14  
大津町立  
美咲野小学校  
文責：草場ルミ子



「笑顔の登校」「満足の下校」という言葉があります。左のグラフは「学校は楽しいですか？」の問いに対する答えを学年毎に並べたものです。学年によって差があるのが気になります。職員もこの結果を見て反省して、次のような声があがりました。

## 職員の声

- 高学年になるほど低くなっている。高学年として自信を持たせるためにも、下の学年との交流を増やして「頼られる」経験をたくさんさせたい。
- 自分が所属する学年以外のことももっと知る時間をとり、全職員で全部の子どもたちのことを育てる学校にしたい。



また、上のグラフは「親は学校のことを知っていますか？」の問いに対する子どもたちの回答です。明らかに学年が上がるに従い、下がっているのがわかります。低学年と中学年、高学年では、親の関わり方、親子の距離も変化していくでしょう。ただ、関わり方は変わっても、何年生になっても、マイナスだけでなくプラスのことも、子どもさんのことを知ってほしいと思います。子どもたちは、特に、美咲野小の子どもたちは、大人から誉められること、認められることを欲しているように見えます。美咲野大賞などで誉めると、子どもたちのやる気は倍増するのですから。保護者の皆さんの声は様々です。



## 保護者の声

- 学校の様子を知りたくて、今年度から、読み聞かせやぐんぐん霧さんさんタイムのボランティアを始めました。娘のクラスが多く、囲気よく見えてきました。お友だちも、思いやりある子が多く、男女分け隔てなく仲良く、とてもよい空気感だなと思います。
- 教育の日もあるのだから、保護者も日頃より学校に足を運び、子どもの様子を知ることも大切だと思います。
- いつも学校の出来事を聞くのが日課となっています。3年生半ばからは、周りの出来事を話すようになり、充実した日々を送れているようで安心しています。
- 毎日、息子が色々な話をしてくれます。それだけで、先生が子どもたちを引きつける授業をしてくださっているのがわかります。
- 前年度は、PTAをしたので学校に行く機会も多く、先生方とお話する機会が多かったので、子どもの学校での様子が目に浮かぶようでした。我が子も、繰り返し学校へ行く私の姿を見て、お疲れ様と協力してくれ、子どもにとっても自分にとっても良い成長の場になったと思います。
- 学校から帰ってくる、クラスのこと、友だちのことよく話してくれらます。その中で「自分はまた怒られる。また怒られるから行きたくないな」というのが気になっています。何と声をかけたらいいいのか分からず、どう導けばいいのか夫婦で話し合っているところです。

担任として毎日子どもたちに接していると、怒りたくなることもあるでしょうが、やはり「認め ほめ 励まし 伸ばす」が、基本ですね。子どもを受け入れることからしか、スタートしませんもの。

## 美咲野小の集会所で

3月8日(金)2丁目の集会所で、運営協議会の委員さん、各種ボランティアの皆さんと職員との懇親会を行いました。一言ずつお話ししてもらったのですが、地域や保護者の皆さんの美咲野愛を感じて、胸が熱くなりました。安全ボランティアの山下さんは、学校建設前の会議から参加し、「美咲野小は自分の子どもみたいなもの」と言われます。運動場南側に、紫陽花を植えているのは、子どもたちが遊んだボールが、林の中に落ちていかないように食い止めるため、また、あの道は通りが少ないので、紫陽花の花が咲けば、花を見るためにたくさんの方が通るようになってほしいからとのこと。2丁目の集会所までつなげるのが目標だそうです。皆さんが、草取りなど協力してくれたら、ありがたいとも言われていました。

読み聞かせボランティアの方々からは、「ずっと以前に読んでお話を覚えていてくれた。」「また、ぼくのクラスの、読み聞かせに来て下さいね」と言われた。「私が『今日は想像して、聞いてくださいね。』と言って読んでいたら、『おかげでいろんな想像ができて良かった』と言ってくれた。」など、数々の心温まるエピソードを聞くことができました。

そして、「来年度も、是非続けます。」との声も多数聞かれ、本当に嬉しい会となりました。ボランティアの皆さんのおかげで、美咲野小の子どもたちは、豊かに過ごすことができていると、改めて思ったことでした。

